

News Release

平成19年10月31日

各 位

パイオニア株式会社
 代表者名 代表取締役社長 須藤 民彦
 (コード番号 6773 東証第一部)
 問合せ先 常務取締役経理部長 岡安 秀喜
 電 話 (03) 3494-1111

平成20年3月期 連結業績予想の修正等について

平成19年5月14日の決算発表時に公表した平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の通期および中間期連結業績予想について、次のとおりお知らせします。

1. 平成20年3月期通期連結業績予想の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）
 平成20年3月期通期連結業績予想について、次のとおり修正します。

(金額単位 百万円)

	営業収入	営業利益	税引前利益 (△損失)	当期純利益 (△損失)
前回発表予想 (A)	835,000	15,000	29,000	12,500
今回発表予想 (B)	820,000	10,000	26,000	6,000
増減額 (B-A)	△15,000	△5,000	△3,000	△6,500
増減率 (%)	△1.8	△33.3	△10.3	△52.0
〔ご参考〕前期実績 (平成19年3月期)	797,102	12,487	△7,717	△6,761

〔理由〕

営業収入については、カーオーディオ製品やパソコン用DVDドライブの売上は通期で計画を上回る見込みですが、プラズマディスプレイの売上が主に北米や欧州で計画を下回る見込みであることから、前回発表予想を下方修正します。また、利益についても、計画に比べ、カーエレクトロニクス事業の利益は増加する見込みですが、プラズマディスプレイの売上減によりホームエレクトロニクス事業の損失が拡大する見込みであることから、営業利益、税引前利益および当期純利益において前回発表予想を下方修正します。

なお、業績予想における為替レートは、1米ドル=115円、1ユーロ=155円を想定しています。

2. 平成20年3月期中間期連結業績予想と実績との差異（平成19年4月1日～9月30日）
平成20年3月期中間期連結業績予想について、次のとおり実績との差異が生じました。

（金額単位 百万円）

	営業収入	営業利益 （△損失）	税引前利益	当期純利益
前回発表予想（A）	368,000	△3,500	9,500	3,000
当中間期実績（B）	383,161	2,262	17,645	9,936
増減額（B－A）	15,161	5,762	8,145	6,936
増減率（％）	4.1	－	85.7	231.2
〔ご参考〕前年同期実績 （平成19年3月期中間期）	380,319	11,691	12,624	9,208

〔理由〕

営業収入については、カーオーディオ製品やパソコン用DVDドライブの売上が計画を上回ったことにより、前回発表予想を上回る結果となりました。利益についても、売上の増加や円安の効果などにより、営業利益、税引前利益および当期純利益において前回発表予想を上回りました。

見通しに関する注意事項

当発表資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上する米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入、急速な技術開発、厳しい価格競争、主観的で変化しやすい消費者の嗜好等を特徴とする、競争の激しい市場において、評価の高い製品やサービスを継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)事業に影響を与える技術進展に応じて、競争し、販売戦略を策定、成功させる能力、(6)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(7)ブランドイメージを継続的に向上させる能力、(8)他社との合弁や提携の成功、(9)事業構造改革の成功、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

以上